

「神様、派遣で来ました」

作・渡辺かずのぶ

【登場人物】

倉持すなお（へらまち・すなお／32） 神社の宮司代理

御霧尊（みきりのみこと／年齢不詳） 派遣されてきた神

村田圭吾（むらた・けいご／38） 元・市役所職員

市川のか（いちかわ・のか／34） シングルマザー

高梨シオリ（たかなし・しおり／27） スピリチュアル系インフルエンサー

西村タケル（にしむら・たける／24） フリーター

（八坂詰）やさかづめ）神社の境内。舞台中央前に賽銭箱がひとつ置かれている。客席側に社殿がある設定。御祭神は抱岩（だきいわ）。神社の朝。静かに鳥の音が響く）

すなおは落ち着いた色合いの作務衣風の羽織を着ている。動きやすく普段着に近い装いでありながら、どこか神社の空気に馴染む控えめな和の雰囲気漂わせている。）

すなお おはようございます。今日も朝は静かだなあ……風だけは、ちょっと強いけし。

（帯で境内を掃きながら、中央の賽銭箱に向かって深く一礼）

すなお

抱石様、本日もよろしくお願います。

（少）の間、無言で掃除に集中する）

すなお

参拝者、来てくれるといいけどな。昨日も結局ゼロだったし。今日もお神酒だけじゃなあ“静か”って、悪くないんだけど、たまには誰か、迷い込んでこないかな

(そこへ舞台奥からふらっと御霧尊(みきりのみこと)が登場。寝癖のついた髪、白の浴衣にサンダル、マグカップを手に持っている。ぼさっとした様子。)

御霧尊

うう寒。春じゃなかったのか。朝の山風、なめてた。俺、こう見えて冷え性なんだけど、神なのに

(舞台袖の方へ向かってしゃべるが、誰もいない)

御霧尊

布団、せめて羽毛くれ。せんべい布団一枚とか、神への待遇じゃないだろ。派遣神だぞ、こっちは。

(すなおの後ろに立つが、すなおはまったく気づかない。御霧尊、賽銭箱をじつと見る)

御霧尊

こりやまた渋い。令和の神社でこのレトロさ。おみくじも絵馬もねえ。潔いねえ。潔すぎて何もねえ。

すなお

よし。ひと通り掃き終わった。今日も、いい一日になるといいなあ。

御霧尊

“なるといいなあ”って、何目線だよ。神頼みしてるのが神職って、どういう構造なんだよ。

(賽銭箱の前に立って)

御霧尊

よくこんなもんに向かって“お願いします”ってやるよな。賽銭箱、ただの木箱じゃねえか。中でチャリンって言った瞬間、“神様スイッチ”でも入ると思ってるのか？

(すなお、賽銭箱の前に立ち、一礼)

すなお

抱岩様。昨日は風が強かったですが、社殿は無事でした。今日もこの地が平穏でありますよう

御霧尊

えらい。真面目。だけどさあ、誰に向かって喋ってんだろうな、ほんとに。

(御霧尊、すなおの背後からのぞきこむように)

御霧尊

おーい、聞こえてるぞ。ここにいろぞ。返事はしないけど。てか、そっ
ちの御祭神の“岩”は休職中だぞ。

すなお

(ふと空を見上げる)

あ……赤とんぼ。風に流されるみたいに、ふわふわしてる。あんな小さな羽
で、ちゃんと帰ってこれるんだなあ……。

御霧尊

赤とんぼか。いいよなあ、好きなどこ飛び回れて。……俺だってさ、本当はも
っとにぎやかな神社がよかったんだよ。観光地の、海のそばとか、カフェの近
くとかさ。ああいうとこ、絶対、映えるじゃん？

すなお

(微笑んで、賽銭箱の前に立ち)

抱岩(だきいわ)様。参拝者が少なくても、私は毎日ここにいます。どうか、
必要としてくれる誰かのところに風を、吹かせてあげてください。

御霧尊

(腕を組みながらにやりと笑う)

風ねえ。吹かすのは得意だぜ、俺。嵐でもいいならな。

(その瞬間、舞台上にわずかな風の効果音)

すなお

あれ、今。いや、気のせいか。

御霧尊

(ぐいっとマグカップをあおって)

ま、仕事始めるか。どうせ今日もまた、“やっかいな願い”が飛んでくるんだ
ろ。派遣神、御霧尊。本日も絶賛、勤務中。

すなお

風の音が、変わった気がする。

御霧尊

来たな。第一波。

すなお

あっ、おはようございます。ようこそお参りに

(境内にふらりと入ってくる圭吾。神社を見まわしながら)

圭吾

あれ、ここ、まだあったんだな。

すなお

はい、まあ、一応、毎朝掃除していますので。

圭吾

いや、別にバカにしてるわけじゃないんだけどさ。最近こういう場所、減ったから。で、何をお願いすればいいんだっけ。

すなお

お願いというより、お気持ちで。賽銭箱にお賽銭を入れて、手を合わせて、何かを祈る、という形で。

圭吾

ふーん。とりあえず小銭あるかな

(ポケットを探る。小銭が落ちる音)

圭吾

うわ、五円玉だけ落ちた。これって、逆に縁起いいのか悪いのか

(その後ろから、高梨シオリが登場。白いワイドパンツにナチュラル系のカーディガン姿。カーディガンの前を軽く押さえながら、スマホを片手に持ち、自撮り気味に境内を歩いてくる)

シオリ

空がきれい。朝の光って、やさしいね。井神社巡り 井深呼吸タイム 井朝のひかりチャージ中

(自撮りしつつ、すなおに気づく)

シオリ

あっ、おはようございます。お掃除お疲れさまですっ

すなお

お、おはようございます(眩しい)

圭吾

眩しいな、色々。

シオリ

この神社、知る人ぞ知ってるって感じで、すっごく“気”が良いんですね。フローワーさんにも教えたいな〜って思ってます

すなお

あの、お願いいじょうね。

シオリ

え、いいんですか？ えーっと“人と人のつながりがもっと光で満ちあふれますように”とか？

圭吾

すっごい、ぼやっとしてて具体性ゼロ

シオリ

それが“宇宙の波動”に近づく秘訣なんですっ

(そこへ、西村タケルがラフなパーカー姿で、片手にコンビニの袋をぶら下げながらやってくる)

タケル

よっ。なんか面白そうな空気だったから寄ってみた

圭吾

空気で来るとは、なかなか感覚派だね

タケル

つかこの神社、まだあったんだね。オレ、昔ここでかくれんぼして怒られたことあるよ。神様のところに隠れたらバシないと思って――

すなお

それは、うちの祖父の頃の話かと

タケル

で、お願いすればなんかラッキーなこと起きたりするの？

すなお

願いの内容にもよりますが、努力や日々の心がけも大切です。

タケル

努力はまあ、“やる気があったらする”感じで。

(境内の奥から、ののかがゆっくりと現れる。落ち着いた服装。午後の日差しに少し目を細めるようにして、静かに入ってくる)

ののか

おはようございます。お邪魔して、すみません

すなお

いらっしやいませ、どうぞ

ののか

……うちの子が、学校、行けなくなってる、私、祈るしか、できなくて

シオリ

そっか。それは……

タケル

オシなんか、祈ったことすらなかったかも。神様ごめん。

(すなお、四人を見渡して微笑む)

すなお

それでは、順番にお参りください。賽銭箱に、お気持ちを

(四人、静かに並び、順に賽銭を入れて手を合わせる。風がさっと吹き抜ける音がする)

圭吾

役所にいたんですよ。体壊してやめて、それっきり――。やっぱり、ちゃんと

働きたいとは思ってます。だから、願うなら、それかな。仕事、です。

タケル

(祈りながら)

たまにはさ、オしのこと『すげー』って言うってくれる人がいてほしいんだよな
すなお

二礼二拍手一礼をお願いします。

(4人、二礼二拍手一礼をする)

圭吾

(すなおに)あの、お名前は？

すなお

倉持すなおです。父が病気で伏せておりまして、私は宮司代理です。

(少し離れた所に、御霧尊が姿を現している。まだ誰にも見えていない。やや不機嫌そう)

御霧尊

おいおい、ひとつ走り目でフルコースか？ 人生の悩み、フォローの承認欲求、進路未定の自由人、不登校の子の母。なかなか豪華じゃねえか。

御霧尊

まあいい。派遣されたからには仕事はする。だが、“そのまんま”とはいかねえぞ？

すなお

今、誰か

タケル

え、なんか言った？

すなお

いえ。風が、ちよっと強くて

(四人、参拝を終えて退場し始める)

シオリ

“神社の神聖さに心洗われました”って、投稿に書こう

圭吾

そのままじゃ心洗われねえぞ

タケル

オし、今日はもう頑張った気がする。帰ったらゲームしよう

ののか

ありがとうございます

(舞台にすなおだけが残り、賽銭箱を見て、そっと手を合わせる)

すなお

神様、どうか、見守ってあげてください。

(すなお、深く頭を下げて去る)

(すなおが箒を手に、社殿の脇から現れ、掃き掃除を始める)

すなお

境内の風、こんなにやわらかかったっけ……。風下がりの陽も、今日はやさしい。……いや、陽に性格があるわけじゃないけど。

(そこへ、圭吾が颯爽とした足取りで現れる)

圭吾

こんにちは

すなお

あっ、こんにちは。なんだか、お元気そうですね。

圭吾

すなおさん、面接、受かりました。

すなお

えっ、それは、おめでとございますー！

圭吾

いやまあ、非正規の臨時職員だけど。でも、今の自分には、ちょうどいい。プレッシャー少なめで、でも役には立てそうです。

すなお

それは、本当によかったですね。

(そこへシオリが登場。スマホを胸ポケットにしまって、いつもより落ち着いた表情)

シオリ

すなおさんーちよっと、聞いてください。昨日の投稿、拡散されまくって、初の10万再生いきました！

すなお

じゅうまん、すごい数字ですね。

シオリ

ですよネ？ 今まで“2万いったらラッキー”だったのに、なんか急に流れが来るといっつか、宇宙が私に光を注いでくれてるっていっつか。

圭吾

“アルゴリズム”っていう宇宙な。

シオリ

でも不思議なんです。いつもよりタグも適当だったのに、なぜか勝手に伸びた

んです。あ、でも悪くない意味で！たぶん“目覚めのエネルギー”がすなお

あの、そういう流れってありますよね。風が変わる、というか

(そこへタケルが走ってくる。両手にコンビニの袋)

タケル

すなおさん、聞いてよ！昨日、道で倒れかけたおじさん助けたんだ。その時、隣にいたヤツがスマホで動画撮ってて、それがSNSでバズっちゃって。

急に“地域のヒーロー”みたいに言われてるんだよね。正直、オシはただ助けただけなのに、やっぱり嬉しいんだ。ずっと“すげー”って思われたかったからさ。

シオリ

それ私も見ました！“スーパーバイト青年”ってキャプションで回ってきた！

圭吾

地域が狭すぎて、余計に拡散力あるやつ

タケル

しかもそれがきっかけで、地元のカフェで“好青年枠”のバイト採用された！制服、シャツだけシャツ！

すなお

す、すごい、急展開ですね。

タケル

いやあ、でも正直、何が起きてんのかよくわかんなくて。なんか流れに乗ってる感じ？

(そこへのがが現れる。前回よりもやや明るい表情)

のが

すなおさん。

すなお

あっ、こんにちは。今日は少し、お顔の色がいいですね。

のが

昨日、うちの子が、玄関を開けたんです。「外に出てもいい？」って。

すなお

！

のが

まだ一步も外に出なかつたんですけど、その気持ち、嬉しくて。

(場に、柔らかな空気が流れる)

タケル

それ、めっちゃすごいじゃん。玄関、重いからね。あれ開けるの、勇気いるよね。

圭吾

何も無いようで、一番大きい一歩かもしれない。

シオリ

“光が入る隙間”って、そういうことなんだろうな

(御霧尊の声が舞台奥から響く。姿はまだ見えない)

御霧尊(声のみ)

お前ら、調子に乗るにはまだ早えぞ。

(全員、一斉に周囲を見回す)

タケル

ん？今、誰か

圭吾

風の音じゃないのか？

すなお

気のせい、でしょうか。

(シオリ、スマホを取り出す)

シオリ

今の、録れてたかな。「神の声が聞こえた日」って投稿に……いや、やめておこう。

ののか

この神社、何かあるのかもしれないね。

(四人、賽銭箱に手を合わせ、笑顔で帰っていく)

(すなおが一人残り、空を見上げる)

すなお

神様、このまま、いい風が吹いてくれるといいんですが

(その背後、誰にも気づかれず御霧尊が腰を下ろしてあくびしている)

御霧尊

はあ、面倒くせえ。叶えてやるのは簡単だが、“その先”がな。どいつもこいつも、“願い”ってやつを軽く考えすぎなんだよ。

(すなお、掃き掃除の手を止めて、空を見上げる)

すなお

日もだいぶ高くなりましたね。……少し、休みましょうか。

(すなお、ほうきをそっと立てかけ、賽銭箱の前に向き直る。一礼はせず、ただ静かに佇む)

(御霧尊も社の影から姿を現し、すなおとは逆方向へ歩き出す)

御霧尊

“願い”の先を考えさせる。それがオシの仕事なんだよ。

ま、気づく奴は気づくぞ。

(御霧尊、やや気だるげに、去っていく)

(すなお、そのまま次シーンへ)

(舞台の照明がゆっくりと各方の色合いに変化する。鳥の音が遠くで響く)
すなお

あれから何日か経って……静かだと思ったら、急に風が強くなった。何か……
変わり目、なんでしょうか。

(そこへ圭吾がやってくる。表情はややこわばっている)

圭吾

こんばんは。

すなお

こんばんは。あれ、何か、ありました？

圭吾

就職はできた。でも、3回目の挨拶でも「誰？」って顔された。

すなお

そ、それは、悲しいですね

圭吾

ま、元々期待はしてなかったけど。あ、でもタイムカード押せたんで、大丈夫。存在は記録されてる。

(シオリが現れる。スマホを手に、げんなりした様子)

シオリ

すなおさん、バズった動画のコメ欄が炎上してて、心がすり減ってきました

すなお

えっ、あの“浄化動画”で、ですか？

シオリ

「浄化とか言ってる、自分が一番承認欲求強いんだろ」って。30000いいねついでして

圭吾

なかなか的確なパンチを

シオリ

やっぱり？やっぱり私、無理して“スピリチュアル感”出してたのかも。

“パワーストーン噛んでみた”とかまでやってたし

すなお

いや、その、努力はされてるんですし

(タケルがやってくる。キャップを深くかぶっており、落ち着きがない)

タケル

すなおさん、やばい、ちょっとバズりすぎた。

すなお

えっ、また動画ですか？

タケル

うーん、街じゃ「事故った人にやたらツイてる若者」って、なんか都市伝説みたいって言われてさ。通りすがりに「お前、オチ担当だろ？」なんて言われるんだよな。俺、本当は“すごい”って思われたくて頑張ってたのに、まるで笑いやみみたいでさ。これって、俺の望みと全然違うんだよ。

圭吾

うん、わかるよ。“すごいやつ”になりたかったのに、気づいたら“面白がられるやつ”になってたんだよな。

タケル

なんで、こうなるんだよ……

(ののかが現れる。少し疲れた顔)

ののか

……すなおさん、こんばんは。

すなお

ののかさん。どうかされましたか？

ののか

うちの子、学校には行ってるんです。でも、家では、一言もしゃべらなくなってます。

(沈黙)

ののか

もしかして、無理をさせてしまったのかなって。私、“嬉しい”って思ったのに、その後のこと、何も考えてなくて。

シオリ

私も、似てるかも。目立ちたかった。でも、注目されたら、“中身”がないのがばれた気がして。

圭吾

本当は願いたい事なんて、しないつもりだったんだ。誰にも迷惑かけずに、地味に生きていこうって。でも、あのとき、ふと頼りたくなった。

タケル

なんか、最近、全部“上手く行きすぎた”のが、逆に怖くなってきた。

(全員、なんとなく賽銭箱の前に立つ)

(その背後、御霧尊が現れる。姿はまだ誰にも見えない)

御霧尊(独白)

まったく。“願いが叶えば幸せ”って思い込んでる奴らほど、手がかかる。

(皆の背中を、御霧尊が見る。どこか憐れむように、しかし諦めにも似た視線)

線)

御霧尊

さて、ここからが本番だな。神の“介入”は、甘くねえんだよ。

すなお

風、変わりましたね。

ののか

なんか、誰かに、見られてるような

タケル

こええよ。何？ カメラ？ 幽霊？

圭吾

いや、“神様の視線”ってやつじゃないか？

すなお

夕方の光が、だいぶ柔らかくなってきましたね。今日は、このあと、もう少しだけ掃除してから上がります。

ののか

そうですね。私も、帰って晚ごはんの支度をしないと。

圭吾

オレも、ちょっと歩いて帰ろうかな。考えたいことがあるんで。

タケル

なんかさ、走りたくなってきた。この空気のせいかも。

(それぞれが思い思いの方向へ歩き出す)

(御霧尊、最後にほんの少しだけ口元で笑い、背を向けて舞台奥へと姿を消す)

(すなお、そのまま残り、次シーンへ)

(社殿のまわりに朝の光が差し始める。すなおが境内に立ち、上着の前をそつと合わせる。風が一瞬、冷たく吹き抜ける)

すなお

あれから三日たつけど……どうも、落ち着かない日が続くな。風の音が、少し違って聞こえる。

(そこへ、いつものメンバー——圭吾・シオリ・タケル・ののかが次々に姿を

現す。表情はいずれもどこか不安げ)

すなお

皆さん、おはようございます。って、どうされましたか？

圭吾

すなおさん。俺たち、話し合いたいことがあるんです。

ののか

この神社で、何か“起きてる”と思うんです。

シオリ

私も。最近、やけにタイミングが良すぎる出来事が多くて。怖いくらいに。

タケル

なんかさ、“誰か”に見られてる気がするってというか、動かされてる感じがすくて。

すなお

もしかして、皆さん、“願いが叶った”と感じてますか？

(四人、ゆっくりとうなずく)

圭吾

でもその“叶い方”が、おかしいんです。ズレてるというか。

ののか

うちの子、学校には行った。でも、私が期待したような“元気な姿”じゃなかった。ただ、黙って耐えてるみたいで。

シオリ

SNSでは数字は伸びた。でも私、コメント欄で“空っぽだ”って言われて、それが本当に凶星すぎて。

タケル

オレ、本当は“ちゃんとした理由で”すげーって言われたかったんだ。でも今は、たまたま撮られた“バズった男”。それって、オレが目指してた“すこさ”とは全然ちがうんだよな。

圭吾

最初は、ありがたかった。でも、今は正直、しんどい。

(賽銭箱の前で皆、言葉を失う)

(舞台全体に朝の白く静かな光が差し込む。御霧尊の立ち位置にだけ、冷たい白のトップライトが落ちる。自然光の中、その姿が不意に浮かび上がり、全員がそちらを見る)

御霧尊

おやおや、まとめて反省会か？

(全員、驚いて御霧尊を見る)

圭吾

あなた、誰ですか。

御霧尊

さあ？ でも、最近この辺で御霧尊（みきりのみこと）とかいう“願いを叶える神様”が派遣されたらしいぞ。

シオリ

“らしい”って……あなたじゃないんですか？

御霧尊

ま、人違いじゃないなら俺かもな。“願い”って、いろいろ面倒だなあ。叶えてやったって文句言われるんだから。

ののか

私たち、文句を言いたいんじゃないんです。ただ、どうしてこんな形に？

御霧尊

願いつてのはな、“口に出した瞬間”から変質するもんだ。叶えてみれば分かる。多くの人間は、欲しかったものの“中身”までは考えてない。

タケル

じゃあ、俺たちが悪いってことですか。

御霧尊

俺が言いたいのはそこじゃねえ。願いつてのは、思った通りに叶うとは限らないし、それをどう受け止めるかも、結局“そっち次第”なんだよ。

すなお

あなたは、“すべての神様”がそっだと？

御霧尊

さあな。他の連中は知らん。俺は——“そういう役回り”ってだけだ。“揺らす係”。願いを完璧に叶えるんじゃないくて、その“余波”を起こすのが仕事だ。

圭吾

ずいぶん厄介な神様だな。

御霧尊

ほめ言葉として受け取っとくよ。

シオリ

私たちは、本気で願ったんです。

御霧尊

だからこそ、“本気”で考えてみる。その願いは、本当に欲しかったものか、を。

（御霧尊、くもりと背を向けて歩き出し去る）

(全員、無言のまま境内に立ち尽くす。それぞれ、ふと顔を上げ、ゆっくり歩き出す)

(ひとりずつ、舞台袖へと退場)

(最後にすなおが、賽銭箱に一礼し、静かに去る)

(境内は無入になる)

(同じ舞台上。午後の静かな時間。鳥の声や風の音などの効果音)

(すなおが再び現れ、賽銭箱の前に立つ)

すなお

なんだか、風の匂いが変わった気がします。

(そこへ、圭吾・シオリ・タケル・ののが順に現れる。誰も言葉を発さないが、それぞれがどこか落ち着いた表情をしている。皆、自然と賽銭箱の前に立つ)

圭吾

願いが叶ったって、何もかもがうまくいくわけじゃないんだな。でも選んだのは自分だし、逃げずにやらないと。

すなお

自分で選んだ道を、ちゃんと歩こうとしているんですね。それって、すごく強いことだと思います。

シオリ

「自分らしく」って言いながら、ずっと「誰かに認められたい」って思ってた。フォロワーとか、バズとか。でも、「ありがとう」って言われたときの気持ちって、ちょっとだけ違うんですね。

タケル

“すごい”って思われたくてさ。でもさ、バズったのって、偶然だったんだよね。頑張ったとこじゃなくて。それがちょっと、ずるしてるみたいで。

ののか

今朝、うちの子が、ちょっとだけ笑ったんです。目が合ったときに。無理に元気にさせようとするより、ちゃんとそばにいることの方が大事なのかもしれないって、そう思えた気がして。

すなお

“願い”って、何かに気づくきっかけかもしれない。

圭吾

結局、選ぶのは自分なんだよな。どんな道を行くかって。

シオリ

神様に背中を押してもらったとしても、歩くのは自分の足ですね。

タケル

なんか今日、みんな“いい話”しすぎじゃないすか？

すなお

かもしれませんね。“揺らされた”ことで、自分たちの考えに気づいたのかもしれない。揺れるのって、怖いけど、止まってるより、いいのかもしれない。

(皆が賽銭箱の前に立つ)

圭吾

たぶん、いちばん変わったのは——俺たち自身かもな。

(すなおが静かに一礼。シオリが目を閉じる。タケルが息をつく。ののかが微笑む)

(誰も何も言わず、手を合わせる)

タケル

なんか、ここに来ると、やる気出るな。理由はわかんないけど。

シオリ

“ちゃんと始める場所”って感じ、しますよね。

圭吾

なんか、ここに立つと、自然と背筋が伸びる。心が整うって、こういうこともな。

すなお

それなら、神様も喜んでると思いますよ。

タケル

じゃ、そろそろ帰るわ。また来るけどね。

シオリ

私も、少し遠回りして帰ろうかな。空気が気持ちいいから。

圭吾

オしも行くか。今日はなんだか、いい一日になりそうだ。

ののか

(小さく一礼して)また、来ます。ありがとうございました。

(それぞれが、軽く手を振ったり会釈したりしながら、舞台の左右・奥へと退場していく)

すなお

入って、少しずつでも変わるものですね。

(すなお、そのまま次シーンへ)

(秋の夕暮れ。すなお、一人静かに佇み、空を見上げる。風が葉を揺らす音)
すなお

あれから五日……夕暮れの色も、少し深くなった気がする。

(そこへタケルが遠くから歩いて近づいてくる)

タケル

(遠慮がちに)

すなおさん……お時間よろしいでしょうか？

すなお

(少し戸惑いながら)

ああ……はい、どうしましたか？

(タケル、少し躊躇いながらも話し始める)

タケル

正直、前までは“すごい”って言われたくて、適当にやってた。でも偶然バズっちゃって、それが俺の望みとは違っちゃって気づいたんだ。だから今度は声優のオーディションを受けてみる。自分の力でちゃんと勝負したい。

(その後ろから、圭吾がゆっくり歩いてきて、タケルの声が聞こえたのか苦笑しながら近づく)

圭吾

うるさい声が聞こえると思ったら……おまえか。元気そうでなによりだ。

タケル

うるせえな。でもさ、正直言うと、ちょっと楽しみなんだ。すげーとこ見せられるかもしれないし。

(そのタイミングで、シオリが少し遅れて現れ、三人に気づいて近づいてくる)

シオリ

(微笑みながら)

そういう気持ち、大事だと思います。なんだか、いい時間に来ちゃったみたいですね。

(風がひと吹き。そこへ、ののかが現れる。いつもと同じ静かな笑顔)

ののか

こんにちは。みなさん

すなお

こんにちは

ののか

今朝は、子どもと一緒に味噌汁をつくりました。“今日のお母さん、なんか機嫌いいね”って言われて……ちょっと泣きそうでした

シオリ

それ、もう完璧な一日じゃないですか

ののか

焦らず、ゆっくり。——“願う”って、無理に変えようとすることじゃなくて、“変わってもいい”って思えることだなって。最近、そう思うようになりました

(みんな、ふっと頷く)

タケル

なんかさ、今日の空気、やけにいいよな。神様、出勤してるかも？

圭吾

いたとしても、たぶん見てるだけ。何にも言わない。——“勝手にやれ”って
いうタイプだろ

シオリ

それでも、誰かが見てくれてるって感じると、少し強くなれる。そんな気がし
ます

ののか

“見守られてる”って思えるのって、安心しますね。結果じゃなくて、存在を
肯定されてるみたいで

(すなおが、賽銭箱の前に歩み寄る)

すなお

何も言わずに、そこに居るだけで、ありがたい存在。そんな“神様”も、いる
のでしょ

(皆、それぞれ自然と賽銭箱の方へ視線を向ける)

タケル

言い訳しないって、けっこう難しいっすね。でも、明日のオーデイション、
“落ちても自分にガッカリしない”って決めたんすよ

圭吾

それはもう、立派な願いだ

シオリ

“信じて進む”って、何より強い

ののか

焦らなくていいって、ようやく思えたんです。願うだけでも、心がちゃんと動
いてたんだなって

すなお

今日も、それぞれに、静かな時間が流れますように。

(全員が賽銭箱に向かって、軽く一礼)

タケル

行ってきます！

圭吾

じゃあ、俺も……

シオリ

散歩して帰るね。

ののか

ゆっくり、がいいですね。

(全員、それぞれの方向へ自然にはける。舞台には、すなおだけが残る)

(すなお、賽銭箱の前に立ち、深く一礼)

すなお

神様……今日の終わりも、どうか見守っていてください。

(静かに舞台袖へはける)

(陽が高く、境内には柔らかな日差しが差し込む。遠くでコオロギの鳴き声がかすかに聞こえる。すなおが社殿の方からゆっくりと歩いてくる)

すなお

秋の風は気まぐれですね。ひんやりするかと思えば、すぐにぬるくなる。……

まるで、あの神様みたいです。

(社殿の奥から、御霧尊が現れる。旅支度のような風呂敷包みを背負い、ゆったりと歩いてくる)

御霧尊

午後も休まず掃除か。神職ってのは、そんなに働きづめなのかね。

すなお

……！ 御霧尊……お戻りに？

御霧尊

いや、戻ったわけじゃない。“帰る”んだよ。次の派遣先が決まってな。挨拶くらいしてやろうかと思ってな。

すなお

そうですか。もう、ここには？

御霧尊

まあ、長居したからな。“仮住まい”のくせに居心地が良くてな。お前らも、面白かったし。

すなお

私たちは、すいぶん揺らびました。

御霧尊

そりゃそうだ。“揺らし担当”だからな。願いをバシッと叶えてはい終わりって神様もいるけど、俺の仕事は違う。

すなお

あえて、簡単には叶えない。

御霧尊

いや、叶えてやったんだよ。ただ、“叶ったあとどうするか”までは面倒見ないってだけだ。そこが本番だからな。まあ、不満もあるだろうけど、俺としては悪くない時間だったぜ。面倒くさそうにしてた奴らが、ちょっとずつ考えるようになって。

すなお

神様なのに、“考えるきっかけ”だけを渡すなんて、変わってらっしゃいますね。

御霧尊

それが俺のやり方なんだよ。強制はしない。気づくか気づかないかは、そっち次第だ。

(すなお、しばし黙ってから、深く一礼)

すなお

本当にありがとうございました。

御霧尊

礼はいい。こっちも、楽しかったんだ。

すなお

また、お戻りになることは？

御霧尊

どうかな。派遣神ってのは風みたいなもんでな。“また来ます”なんて約束はできねえ。あと元々、祀ってあった抱岩、休職から明けるってよ。俺が人を揺らしすぎて、戻る気になったらしい。

すなお

そうですね。あの岩が。

(少し微笑む)

御霧尊

(背を向けて歩きだし振り返る)“願う”ってのは、すごい力を持ってる。だけど、“願ったあとの選び方”で、人生は変わる。

すなお

選び方。

御霧尊

そう。“誰かが叶えてくれる”って思ってるうちは、足も動かねえ。——でも、自分で一步踏み出せば、神様は案外、それを応援したくなるもんだ。

(すなお、目を伏せ、うなづく)

御霧尊

じゃあな、“倉持すなお”。ちゃんとここを守ってくれよ。

すなお

はい。御霧尊様は、風が吹くたびに思い出します。

御霧尊

さて、次はどんな“揺れ”を起こしてやるか、な。

(御霧尊、去る)

すなお

いってらっしゃいませ。

(すなお、深々と頭を下げる。そのまま、ラストシーンへ)

(秋の朝。すなおが神前で手を合わせる)
すなお

本当に静かですね。神様がいたときより、何も無いのに、ここ数日で何だか満ちてきたような……そんな気がします。

(そこへ、圭吾が姿を現す。軽いジャケット姿。顔はすっきりとしている)

圭吾

おはようございます、すなおさん。仕事の前に、ちょっとだけ寄りました。

すなお

ようこそ。今朝は、風が気持ちいいですね。

圭吾

はい。なんていうか、祈りたくなる朝です。

(圭吾、賽銭箱の前に立ち、手を合わせる。静かに目を閉じている)

(そこへ、シオリが現れる。スマホではなく、小さな和紙の短冊を手に持っている)

シオリ

おはようございます……あれ？ みなさん、静かですね。

圭吾

たまにはいいでしょ。願うのに言葉はいららないんだから。

シオリ

そうですね。今日、気持ちを紙に書いてきたんです。願いとより、整理するというか……自分が本当はどうしたいのかを確かめたくて。

すなお

紙に書くというのも、いいですね。手を動かすうちに、心も整ってくる。

シオリ

今ここで、もう一度、心の中で読んでみます。叶うかどうかより、ちゃんと向き合いたくて。

(シオリ、目を閉じる)

(タケルが駆け足でやってくる。やや汗をかいているが、表情は明るい)

タケル

あー、ギリ間に合った！ “お願いしに来たら誰かいる” ってパターン、多くない？

すなお

誰かが心を整える場所には、自然と人が集まるのかもしれないね。

タケル

オーディション一次受けました。“落ちても構わないって言ったけど……やっぱり、最後まで受かりたいっす。

圭吾

そうだな。最後まで受かりたいよな。

シオリ

願うのは、弱いんじゃないかって、がんばろうって思う気持ちだよ。

(ののかがゆっくり現れる。手に折り紙の鶴を持っている)

ののか

おはようございます。子どもと一緒に折ったんです。なんとなく、折ってたら落ち着くのよ。

すなお

そういうの、いいですね。ただ静かに、気持ちを整えるって。

(それぞれの表情に、少しだけ前向きな光が差す)

すなお

ここしばらく、風の音が違って聞こえます。季節が変わったのか、それとも……

(少し風が吹く)

すなお

御霧尊様は、もういません。ここにいた抱岩様が戻ってくるから。

タケル

そっか。あの神様、行っちゃったかあ。

圭吾

姿は見えなくても、気配みたいなもんが残ってる感じ。

シオリ

風が吹いたり、花が咲いたりするだけで、ちょっと優しくなれる。そんなの、神様のせいにしたくなるよね。

のか

祈るって、神様と話すってよりも、自分と向き合う時間も。

すなお

そうですね。そういう時間を許してくれるのが、神社であり、神様の“居場所”かもしれない。

(みんな静かにならず。風がもう一度やわらかく吹く)

タケル

(少し笑って) オし、走ってくるわ。じゃあ、またな!

圭吾

仕事は続けるよ。今日「おつかね」って言われて、ちょっと認められた気がした。

シオリ

今日はスマホもSNSもやめて、ゆっくり自分を見つめ直そうと思う。

のか

子供が学校に行かなくてもいい。生きてくれてる、それだけでありがとう。それを伝えるのが、今日の願い。

(みんな舞台奥へ歩き出す。すなおだけ残り、賽銭箱の前で深く一礼)

すなお

神様って、変えてくれるんじゃないって、変わろうとする自分を見ていてくれる存在かも。

(掃き掃除の音。竹箒が静かに響く。風がもう一度境内を通り抜ける)

【幕】